

慶應義塾大学楽友三田会関連団体『楽友三田会歩こう会』  
第59回楽友三田会 Walking の会 開催のお知らせ

**野川 再ウォーク ・ 国分寺崖線を歩く**

＜開催のおしらせ＞

2017年4月2日（日曜日）

集合場所、時刻：

JR国分寺駅 北口

午前 10時00分

今回のウォーキングは国分寺駅を出発し、日立製作所中央研究所の中にある野川の源流を訪ね、その後野川の流れに沿って、成城学園駅まで歩きます。

かつて歩こう会ではこの川沿いを二回歩きました。

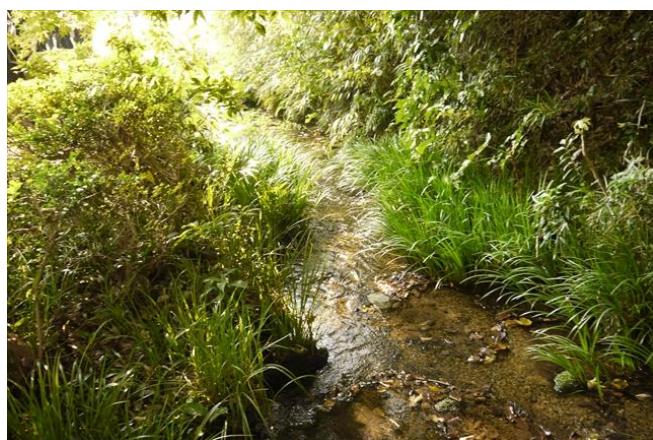
最初は2008年3月30日「早春の野川ウォーク」で下流から上流に向かい、二子玉川駅－<野川>次大夫堀公園－深大寺－野川公園－お鷹の道－国分寺－国分寺駅まで歩きました。歩行距離は25km。

その次は2009年4月5日「武蔵野桜ウォーク」で上流から下流に向かい、花小金井駅－小金井公園－武蔵小金井駅－中村研一美術館(ハケ)<野川>野川公園－深大寺－喜多見－次大夫堀公園－砧公園－桜新町駅まで歩きました。歩行距離は23kmです。よく歩いていましたね。

さて、今回のルートは

(1)野川源流を見る 一 日立製作所中央研究所

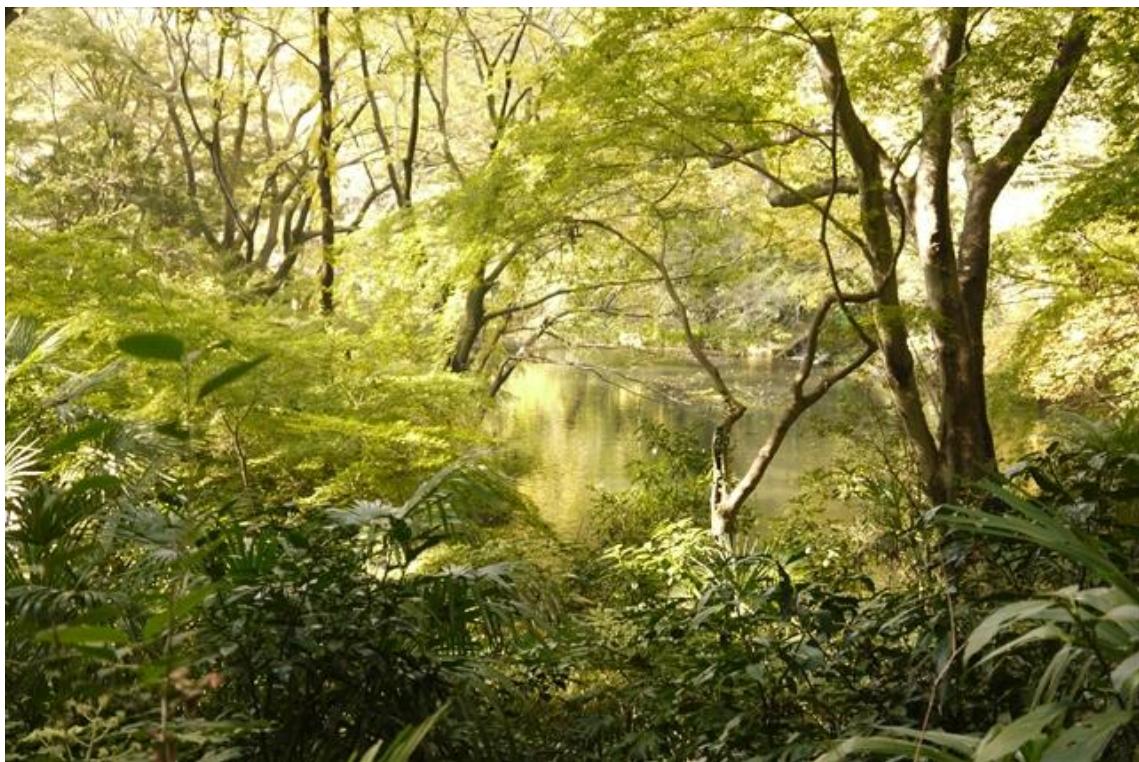
集合場所のJR国分寺駅から10分ほどでこの研究所に到着。実は野川の最源流がここにあり、この研究所は1年に2回(春と秋)、ここを解放する日を設けており、その一回目の開放日が今回のウォーキング開催日の4月2日なのです。



研究所の説明によると：

「東京にある多くの公園と中央研究所の森の大きな違いは、人が手を入れていない区画が多く残されていること。そして、普段は関係者以外入ることができない、閉ざされた空間のことです。こうした要因が重なって、中央研究所の敷地には、武藏野の古くからの自然がそっと保たれてきました。なかでも特筆すべきは、国分寺崖線(こくぶんじがいせん。通称「はけ」)からの湧水(ゆうすい)です。構内の数カ所からわき出た水は、構内に設けられた「大池」に集められ、武藏野台地を流れる野川の源流の一つとなって、多摩川へと注がれます。豊かな森と、きれいな水。恵まれた自然環境を求めて、さまざまな生き物たちが集まっています。塀ひとつ隔てただけの空間に、外の市街地とは違う生態系が形作られているのです」

(HITACHI 企業情報 環境への取り組み より)



都内では数少ない残された自然の中をゆっくりと歩いてみましょう！！

<http://www.hitachi.co.jp/environment/showcase/employee/ecosystem/musashino/index.html?WT.ac=musashino>

(2) 都立殿ヶ谷庭園  
国分寺駅の南側にある庭園

「大正初期、満鉄副総裁の別邸として造られた後、旧三菱財閥の岩崎彥弥太氏の別邸として、茶室などが整備され、回遊式庭園として完成しました。園内の「次郎弁天の池」は、野川の水源の一部です。例年「紅葉を楽しむ会」などの行事が催されます」（国分寺市 ホームページ）



国分寺崖線から湧き出す水

国分寺崖線とは：

河岸段丘の縁端に沿って延々と続く崖の様子を、学術的には崖線(がいせん)と呼んでいる。武蔵野の方言ではこの崖線を特に「ハケ」とか「ママ」などと呼ぶ。

国分寺崖線は武蔵村山市緑が丘付近に始まり、西武拝島線と多摩都市モノレールの玉川上水駅付近を通り、JR中央線を国立駅の東側で横切り、国分寺市、小金井市と国立市、府中市の市境に沿って東に進む。さらに野川の北に沿いながら調布市に入って深大寺付近を通り、つつじヶ丘などの舌状台地を作りながら世田谷区の砧地域、玉川地域南部を通り、大田区の田園調布を経て同区の嶺町付近に至る。世田谷区の等々力渓谷は国分寺崖線の一部である。高低差は20メートル近くになる。なおこの国分寺崖線は、古多摩川(関東ローム層下に存在)の浸食による自然河川堤防と考えられている。（ウィキペディア より）

## (3) 野川 武蔵野公園



まだ川幅が狭い

## (4) 野川公園



こんな所もあるんですね。今回は少し脇道も歩きましょうか。



2009年4月5日「武藏野桜ウォーク」の写真



後ろ姿で誰だか想像がつきますね



湧き出す水



こんな写真もありました

(5)深大寺 時間の余裕があったら寄りましょう。

(6)ふれあい広場

小田急電鉄喜多見検車区上部の人工基盤の上に造成されており、広場を主体とした公園になっている。地上約10メートルの高さにあり、晴天時は富士山や丹沢山地が望める<sup>1]</sup>。また隣接する野川の遊歩道と一体となっており、付近の貴重な緑地になっている。  
(ウィキペディアより)

(7) 打ち上げ（成城学園駅）

創作居酒屋 土間土間 成城学園前店

050-5815-7993

### 野川再ウォーク 距離測

場所	区間距離	延キロ 数	時間	摘要
国分寺駅	0.0	0.0	10:00	
日立研究所 入口	0.6	0.6	10:10	庭内は出店でぎわうようですがで きるだけ寄らないようにしましょう
日立研究所 出口	1.4	2.0	10:50	
殿ヶ谷戸庭園 入口	1.0	3.0	11:05	15分ほどの逍遙
武蔵野公園 入口	4.0	7.0	12:00	
野川公園入口	1.0	8.0	12:20	トイレ
ハケ	1.0	9.0	12:40	
人見街道	0.9	9.9	12:55	昼食(御狩野蕎麦店)出発 13:45 (バスあり、三鷹駅)
深大寺	3.3	13.2	14:50	トイレ (バスあり・つつじヶ丘駅、吉 祥寺駅)
甲州街道 (柴崎駅)	2.8	16.0	15:45	(京王線柴崎駅)
ふれあい広場	3.3	19.3	16:50	
成城学園前駅	1.6	20.9	17:25	打ち上げ 居酒屋「土間土間」

ルート



一部 変更あり

費用：

- 各自往復の電車賃
- 昼食代　　昼食は御狩野(みかり)の蕎麦店の予定

メニュー



- 打ち上げ 創作居酒屋 「土間土間」 成城学園前店

費用 3000円

準備： 日ごろ履きなれた通常のウォーキングシューズ。  
水分補給用飲料水、雨の対策具。

○本会は無理をしないことを第一の旨としていますが、雷雨、台風、豪雨などの厳しい気象状況が発生しない限り、ウォーキングを行います。

「歩こう会」より

次ページは 2009 年のウォーキング「武藏野・桜ウォーク」の報告文です。

第15回 武藏野・桜 ウォーク 報告  
2009年4月5日(日) 参加メンバー 34名

[花小金井～] 赤見 紘子、池田 一雄、市村 正明、大石 博國、大竹 虎彦、

川嶋 修、川村 和男、桐山 祥子、工藤 光世、齊藤 栄造、

佐藤 節子、佐良土 雅文、佐良土 美恵子、豊岡 守紀、

中小路 修、仲濱 鐵志、橋本 曜、平尾 慶子、三門 康男、

吉武 優子 (20名)

[武藏小金～] 井尾 稔子、岡田 加代子、草野 真理子、玉木 美智子、田村 晴美、  
椿 博子、椿さんご主人、舟山 幸夫、峰岸 篤子(9名)

[柴崎～] 粟根 潤子、久保 美恵子、田村 陽子 (3名)

[喜多見～] 小川 晴子、富田 陽子(2名)

花小金井駅に集まったメンバーは20名。予定の時刻、9時30分にこの日のウォーキングを開始。改札口から、駅の階段を下り、外にでると、早くもサクラやこぶしの花が目に飛びこんできた。

今回のウォーキングは二つの点で、気をもんだ。ひとつはサクラの咲く時期、もうひとつは当日の天気。3月21日にサクラの開花が宣言され、あーあ、満開の日は3月の末ころか、こりゃ、4月5日は葉ザクラか、と。そして当日の天気は一週間前の予報だと、みごとに雨。ところがどっこい、春は名のみの～風の寒さや～、サクラのつぼみはしっかりと身を守り、気温が上がるのを待っていてくれた。おかげで、開花日から2週間たった、ちょうどこの5日が満開に近い日となる。天候も前の夜に雨が降り、当日は雨上がりのしっとりとした朝を迎えることができたのである。



多摩湖自転車道(土手の上がる道)

花小金井の駅前から多摩湖自転車道を歩く。この道はこのあたりを起点にして多摩湖堰

堤のたもとあたりで終点になるサイクリング道路。自動車が通る道ではないので歩きやすい。しばらく行くと土手っぱらを歩いている感じになる。この土手を下り、私達は小金井公園に向かう。ここは小平市花小金井南町。

### 多摩湖自転車道

武藏野の五日市街道から多摩湖に至る水道導水路の上と多摩湖一周の一般道路沿を利用して設置された大規模な自転車歩行者専用道路。起点の保谷市新町3丁目(五日市街道)から、田無、小平、東村山、東大和、武藏村山の各市を抜け、多摩湖をほぼ一周し、東村山市多摩湖町3丁目に至るまでの路線で、都立小金井公園サイクリングコース、都立狭山自然公園サイクリングコースなどと結び、並行して緑道も設置されている。武藏野の面影と歴史のロマンが漂う玉川上水、野火止用水を抜けて自転車歩行者専用の鹿島・多摩湖橋、アカマツ林や雑木林の丘陵が湖畔に迫る多摩湖をほぼ一周するコースまで、全長 21.9km。

9時50分、小金井公園に着く。広い公園だ。77ヘクタール。日比谷公園の4.7倍だそうだ。やがて前方に大きなサクラの木が。吉武さんがそれをみて、「あー、空がピンクに見える」。その木の下で記念撮影。公園をしばらく歩くと、ウォー、これぞ桜の園！！サクラ、さくら、桜…、やよいのそへらへは、見わたすかぎへり。

10時25分、公園を出て武蔵小金井駅に向かう。玉川上水を渡る。水量が少ない。今回初めての参加である中小路君(15期)は晴れ男を自任している。今回は彼の参加が晴れにつながったか。今後、毎回参加してくれることを祈る。

10時40分、武蔵小金井駅に着く。9名と合流。計29名で歩く。小金井街道を南下し、程なく左の道に入る。坂道を下り、金剛院というお寺を右に見て、「はけの道」に入る。実はこの下り坂、野川を作っている国分寺崖線の かけ そのものであった。国分寺崖線は古多摩川がその流れと地殻変動により作った河岸段丘であり、段丘の上は武蔵野台地。この河岸段丘が作る崖のことを「はけ」と呼ぶ。しかし、何故「はけ」という呼び方になったのかはよく分からぬ。工藤光世さん(14期)がなんで「はけ」って言うのかしらと疑問を呈した。御本人は「きっとガケ(崖)からハケになったのだわ」と一人で納得していたけれど。

この報告文を書くにあたって、大岡昇平の「武蔵野夫人」を読んでみた。もちろん初めて読んだ小説だ。昇平さん、「はけ」に関する勉強をかなり突っ込んでいたようです。「はけ」に絡んだいろいろなお話が出てくる。小説そのものの内容もなかなかに刺激的なものだ。

大岡昇平 「武蔵野夫人」、冒頭部分での「はけ」の由来に関する推論

『土地の人は何故そこが「はけ」と呼ばれるかを知らない。「はけ」の荻野長作といえば、この辺りの農家に多い荻野姓の中でも、一段と古い家とされているが、人々は単にその長作の家のある高みが「はけ」なのだと思っている。

中央線国分寺駅と小金井駅の中間、線路から平坦な畠中の道を二丁南へ行くと、道は突然下りとなる。「野川」と呼ばれる一つの小川の流域がそこに開けているが、流れの細い割に斜面の高いのは、これがかつて古い地質時代に…古代多摩川が、次第に西南に移って行った跡で、斜面はその途中作った最も古い段丘の一つだからである。……

……斜面の裾を縫う道からその櫻の横を石段で上がる小さな高みが、一帯より少し出張っているところから、「はけ」とは「鼻(はな)」の訛だとか、「端(はし)」の意味だとかいう人もあるが、どうやら「はけ」は即ち、「峠(はけ)」にほかならず、長作の家よりは、むしろその西北から道に流れ出る水を遡って斜面深く食い込んだ、一つの窪地を指すものらしい。』

この辺りは武蔵村山から世田谷まで延々繞く国分寺崖線の中でも特に豊かな森が続いている、通称「はけの森」と呼ばれているところ。私達はこの森に沿った「はけの道」をしばらく歩き、「はけの森美術館」で小休止。裏庭を散策する。ここで、今回、初めてウォーキングに参加された方々をご紹介。峰岸 篤子(8期)さん、久保 美恵子(12期)さん、玉木 美智子(井尾さんのご友人)さん、中小路 修(15期)君、田村 晴美(16期)さんの五名。

裏庭には湧泉があり、水が湧き出ている。その水の流れに沿って、「はけの小径」が美術館の前から、南に向かってつづいている。この小径、幅1メートルほどで、100メートルも満たない距離だけれど、「なかなかいい みち だね～」(池田君 15期)。

その小径の終ったところは住宅地で、そこからすぐに脇道に入る。突き当ったところが野川。市村さん(9期)「なにか見たことがある風景だな」と。それもそのはず、去年の同じ時期にこの川の反対側の道を上流に向かって歩きました。この辺り、枝垂れ桜が咲いてきれいでした。今年はこの枝垂れ、すでに終わってしまっているのか、花は咲いていなかった。さあ、これから下流に向かってのウォーキングです。メンバーはまだまだ元気。空は曇っていたけど、寒くもなく、暑くもなくウォーキングには最高の条件に近いか。

300メートルほど歩くと、そこは武蔵野公園。広々とした空間が広がる。サクラが満開に近い。大きなこぶし(モクレン?)の木がいたるところで大きな白い花を咲かせている。「はけ」からの水を運ぶ小川で子供たちが何かを網でくってジャムが入っていたような小瓶に入れている。何が捕れたのと聞くと、そばにいたお父さんが恥ずかしそうに「みずすまです」。

今年はカワセミとの出会いが去年より多かったような気がする。野川を下りながら、いたる所で、この鳥を観察することができた。鳥がホバリング(空中で静止)をするのも観察できた。

見知らぬカメラマンが超望遠のファインダーをのぞかせてくれた。カワセミの体がはみ出しそうなくらい大きな画像だ。佐良土さんが今年も素晴らしい写真を撮ってくれた。彼は何気なく写真を撮っているが、結構決定的な写真を撮っている。画像もなかなかだ。腕がいいのか、カメラがいいのか？（ちなみにカメラはキャノン製ではないそうだ）

自然といくつかのグループにわかれ、ウォーキングは続く。先端から最後尾まで200メートルくらい離れているか。しばらくして、野川公園に入る。ここも川沿いにサクラがほぼ満開。歩く、歩く。水車小屋を通り、左手に東京天文台を見て、やがて深大寺に到着。12:50。我々は去年と同じお蕎麦屋さんの鳴田屋に入る。席がすでに用意されており、順番を待つことなく、席に着くことができた。

深大寺境内で記念撮影し、13:50 深大寺をあとにし、後半のウォーキングを開始。この日、深大寺でウォーキングを終了したメンバーは 平尾さん、中小路君、工藤さん、佐良土美恵子さん、吉武さん。

予定の時間より20分ほど遅れている。田村陽子さん、粟根さん、久保さんが柴崎にすでに着いていると、連絡が入る。うわー、芝崎までまだ20分以上かかりそうだ。これは怒られる。「田村さんがこわい」なんて言っていたら、それを聞いておられた峰岸さん、まじめな顔をして、「田村さん（9期）はそんな人じゃないわよ。やさしい人よ」と仰る。はい、わかっております。峰岸さん、すいません。軽い冗談のつもりでした。

この辺りもサクラがいっぱい。それに川の岸边には菜の花が一面に黄色い花を咲かせ、そこに白い鳥・シラサギやあいがもが川の中を歩いたり、泳いだりしている。ピンクと黄色と白。そうそう、どのあたりだったか、2メートルまではいかないか、かなり長い蛇が冬眠から覚めたのか、ゆったりと川岸のところで体を動かしていた。

京王線ガード下近く（柴崎）に到着 14:30。田村さん、粟根さん、久保さんと合流。峰岸さん、赤見さん、草野 真理子さんのこの日のウォーキングはここまで。

ガード下からしばらく歩いたところで、椿さんご夫妻がこの日のウォーキングを終了。自宅は調布市西つつじヶ丘。このあたりからすぐそばのこと。さて、この日のウォーキングもいよいよ打ち上げ会場に近づいてきた。時間がかなり押している。打ち上げ会場は16:30～19:00までの予約。このままで行くと17:00を過ぎそうだ。かなりの距離を歩いてきたので、みんなの足もだいぶ疲れてきている。それでも、メンバーのみんなに発破をかける。「このままでいくと、打ち上げの時間がなくなるかもしれません。頑張って歩きましょう」。

小田急線ガード下（喜多見）で、小川さんと富田さんが合流。岡田さんのウォーキングは

ここで終了。次大夫堀公園を通り、野川を渡って、砧公園へ向かう。足が重くなったメンバーも出てきている様子だけれどみんな頑張っている。女性軍：桐山さん、佐藤さんは花小金井からの参加だけど、すごい脚力だ。スイスイ歩いている。

ついに砧公園に到着。人が大勢だ。この公園は、戦時中は防空緑地、戦後は都営のゴルフ場として開放されていた大緑地。ここも小金井公園に負けないサクラの賑わいだ。枝が地面近くまで伸びていて、目の高さでサクラの花を楽しむことができる。



砧公園のサクラ

そうそう、上の写真のあたり、芝生の真ん中に欅の大木が一本スーと天に向かって伸びていましたよ。小川さんが、「これ私のケヤキよ、素敵でしょ」。私「え？」。小川さんによると、この公園はご自宅からの散歩コースであり、来るたびにその四季折々の姿を見つめつづけているそうだ。それはそれは愛情のこもった表情でこの木のことを説明してくれた。一本の木と人との縁…いいですね。

この公園には谷戸川という川が流れている。その水が噴き出しているところに吊り橋がかかっていて、その橋をみんなで渡り、人、人、人の中をかいぐるよう公園の出入り口に向かう。

私達は、予定だと馬事公苑のサクラを見て、桜新町の打ち上げ会場「こなもん(古無門)」へ向かう予定だったが、時間が押したため、馬事公苑は通りから中を覗くだけで、そのまま通過。 だいぶ足が重い。メンバーのみんなもかなり疲れたと思う。それでも歩く、歩く。 17:10、ようやく「こなもん」に到着。みんな頑張りました。さいごは飲みたい一心でした。玉木さんとはここでおわかれ。残った23名で打ち上げ会場「こなもん」の門をたたいた。 女性軍:桐山さん、佐藤さんは完走。全長23キロメートル。

### 三門 記